

キジ 雉子

日本の国鳥、く里近くの野山にすむ。大きさはニワトリくらい。尾羽が長い。主に植物と食べ、小さな虫も食べる。春はオスが雄雉子も確保するため「ケーン」と大きな声で鳴き、縄張りを主張する。メスは草原に巣を作り卵を産む。卵を守るため敵が近づいたら警戒して動かさない。

頭は青い
尾は赤い
胸は赤い
源七橋

オスはハビやガラスと戦う。地震の振動をいち早く察知することから古名は「キギス」

源七橋
遊歩道4.4m

セリ芹

セリ科の多年草。日本原産。春の七草。水田や湿地に生える。香りが濃く、たまたま雑草で食べられる。夏は、白く細い花が咲く。

キツネノハシロノコ
花の大きさは1cmくらい
花は淡紫色
中央部分に白色の斑がある。

ムササギナ

ハドクソウ科の多年草。田の畔に一面に広がる。

よく似た花にはキツネノハシロノコ

オジシロ

大地構り。キク科の多年草。地面を這うように一面に広がることからこの名がある。よく似たオジシロ(イワガキ)は、やや小さめで、葉が裂ける。

スズメテボウ

雀の鉄砲イネ科。水田、湿地に多い。草葉にはる。

大きさは3cmくらい

見は細長い

カマエナ

ホタルの幼虫の餌になります。

田んぼでよく見られます。

アミメ
葉が固く
ほろ苦いので
虎杖漬

イタドリ 虎杖

タデ科の多年草。2m近くに生える。新芽は「スカンボ」といい、食用になる。夏に赤い花が咲く。



古入の沼

大層台地の南の縁には、かつて古入川の流し、上流から運ばれた土砂により、谷の入口から沼が、たぐさの沼ができました。

野原の植物

- スギナ
- シロツメクサ
- アカツメクサ
- ヤエムグラ
- キョウリクサ
- ヒメオドリコソウ
- ホトトギサ
- ナズナ
- ミドリハコベ
- オアシロ
- カラスノエンドウ
- カラスノエンドウ
- ハマダイコン
- ギシギシ
- ヨモギ
- ナカミセナゲシ
- イタドリ
- クコ

土手への植物

- セイヨウカラシナ
- カンナツクサ
- カラスノエンドウ
- ハマダイコン
- ギシギシ
- ヨモギ
- ナカミセナゲシ
- イタドリ
- クコ

湿地への植物

- セリ
- ムササギナ
- オジシロ
- ナミノスズメ
- スズメテボウ
- タネツクサ
- トクサ
- オニタビラコ
- ヨシ
- ハビイコ

八丁堤

江戸時代になり、江戸の治水対策として荒川と利根川の流しを変えられた。現在の埼玉県南東部は本田の水不足が深刻になりました。1629年、関東郡代伊藤忠治は、附島村に菅谷村の間に土手(八丁堤)を築き見沼をためたにしました。

見沼田んぼ

幕府の治水対策として全国の新田開発が進められました。1727年、井澤赤松共済会永による見沼の治水が、見沼田んぼの造成が開始されました。その用水として約60km離れた利根川の水を利用する。見沼代用水が造られました。

見沼通船堰

見沼田んぼで収穫された米を江戸に運ぶには、江戸へ長く荒川に用水をつなぐ必要がありました。1731年、井澤赤松共済は用水と荒川をつなぐ通河(見沼通船堰)を造りました。用水と荒川の水面差3mに水を流すため、途中に開造り、開門(こうもん)式の通河としました。

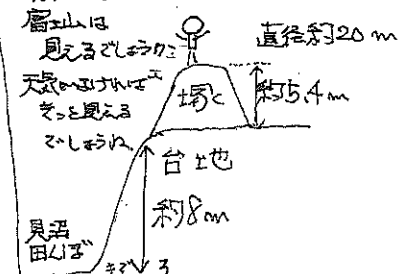
見沼通船堰の春

八丁堤で開造られた見沼は、江戸時代=江戸見沼田んぼと呼ばれた。今は水田は本当に少なくなりましたが、畑や雑草畑、緑地などが多いです。貴重な環境であることに変わりはありません。また、水田に水が入ります。するとさらに多くの生き物が集まってくる。

2022年4月16日 詞問亭 11-川 三



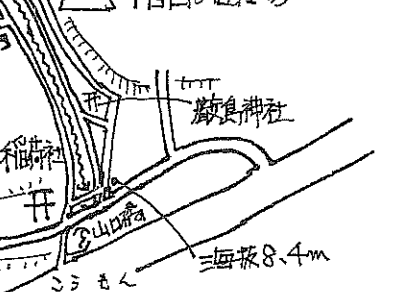
層々上からのなまめはとてよいです。表下には通船堰が見えます。



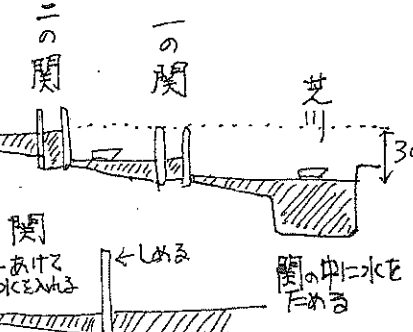
菅谷の富士塚

1800年に造られた。現存する中では最も古い富士塚。富士塚は、富士山信仰にもとづいて造られた。ミニチュア富士山。国の重要有形民俗文化財

菅谷の富士塚



開門の仕組み



水がたまった船と堰の中に入れる。ほら開門をあけて水位を下げます。